

令和2年度 第1回南部町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和2年8月4日（火） 午前10時00分 開会
午後0時05分 閉会
- 2 開催場所 南部町役場本庁舎 2階 大会議室
- 3 出席者
・町長 佐野 和広 ・教育長 芦澤 和彦 ・教育長職務代理者 河内 留美
・教育委員 佐野 保仁 ・教育委員 入月 一巳 ・教育委員 山本 純司
- 4 事務局等の出席者
町長部局 秘書政策監 望月 一弥 総務課長 滝 基成
教育委員会事務局 学校教育課長 渡辺 雄治 生涯学習課長 近藤 利也
- 5 協議事項
(1) コロナ禍の対応（臨時休業中・再開後・町の施設等）について
(2) コミュニティースクールの導入とこれからの南部町教育について
(3) 町単教員・支援員の配置による成果と課題について
(4) 小学校の統合、そしてその後について
(5) その他
- 6 議事経過の概要
次のとおり

1 開 会 （河内教育長職務代理者）

皆さん、おはようございます。今年度の第1回南部町総合教育会議は、コロナについて、又はコミュニティースクール等、議事もたくさんありますがよろしく申し上げます。それでは、令和2年度の第1回南部町総合教育会議を始めます。

2 町長あいさつ

おはようございます。コロナの影響で久しぶりの総合教育会議です。長い梅雨がようやく終わりましたがコロナの状況は依然として収束には至りません。しかも今度は地方に広がりを見せています。また、間もなくお盆を迎え帰省客も来ると思います。本町のような小さな町では、コロナが発生しますとパニックになりますので、しっかりと対策を執って参りたいと思います。

学校は、いよいよ夏休みに入りました。コロナと言う大変な時代を迎えましたが、南部町が目指す町づくりには、非常にチャンスではないかと思っています。と言いますのは、ご存じのとおり、今は東京一極集中です。以前からこの問題は、国で取組んできましたが思うようには進んでおりません。しかし、このコロナをきっかけにそのような向きが少しずつ加速して来るのではないかと思います。本町の立地条件からすれば隣接する静岡県、或いはここへ来まして交通のアクセスも良くなって参りましたので、その先の東海地方へも目を向けていかなければなりません。そのためには、南部町は何が凄いのか？「豊かな自然」これはもちろん、いろいろなところで皆さんから評価をいただいておりますが、一つ目はお年寄りが「住んで良かった。」と思っただけのことと、プラス教育です。南部町が他に負けな

いような町になっていければ、間違いなく皆さんが住みたいと思う気持ちになります。さらにその先の「仕事」に関しては、今、徐々に根付いてきていますから、そのためには何としても皆さんの力を借りながら南部町の教育を頑張っって良い町にしたいと思います。

今回から山本先生が新たな教育委員としてご参加していただいております。新たな視点からご意見をいただければありがたいと思います。簡単ではありますが以上です。

3 教育長あいさつ

おはようございます。忙しい中、ご苦勞様です。町長さんから話がありましたようにコロナの対応、さらに長い梅雨が明けましていよいよ本格的にという時に夏休みに入りました。

コロナの対応につきましては、町長さん以下、役場の皆さんにもご支援をいただきながら何とか対応はできたと思っています。いずれにしましても臨時休業中も、その後も、私たちににとっては初めてのことでいろいろなありました。その中で学校の職員共々できる範囲で最大限のことを果たすように対応してきました。今後も第2波、第3波の心配もありますが、今までの経験を活かしながら、また、皆さんからいろいろなご意見をいただきながら対応して参りたいと思います。

皆さんもご存知のとおり、これまでいろいろなイベントがありました。入学式、卒業式にしましても、今まですごくエネルギーを注いできた部分が、いわゆる簡素化ということで新たな式典の取り組みが見えてきました。これからの学校の在り方についても、少しずつご意見をいただきながら変えられるものについては変えていきたいと思っています。いずれにしましても子供の安全を第一に考え、いろいろなものを構築しながらやっていきたいと思っています。

本日の会議は、約2時間を予定しております。よろしくお願いをしたいと思います。

4 議事

(1) コロナ禍の対応（臨時休業中・再開後・町の施設等）

[教育長が新型コロナウイルス感染症の対応について、臨時休業中、再開後の学校の対応及び臨時休業期間中における放課後児童保育との協力体制について説明しました。]

(佐野委員) 子供たちにとって良かったのは、4月に入って入学式・始業式のほか1週間学校に通えたことが非常に大事でした。児童にとって担任の顔がわかり、家庭訪問においても「僕の先生が来てくれた」という思いがあるようで、入学式・始業式ができたことは非常に大きかったと改めて思いました。また、先ほど教育長さんから説明がありましたが放課後児童保育につきましても変則的になりましたが、保護者からは「子供を見てもらいありがたい」という言葉は聞こえてきますが、批判的な言葉は聞こえません。そのことから南部町の対応は良かったと思います。

(教育長) 臨時休業に入る前に家庭を不安にさせないということで各学校長と協議をしました。その中で年度初めは、わずかな期間ではあるが子供たちに担任等を紹介し、学校体制の構築を図りました。また、臨時休業に入るにあたり学校開放の問題等、町長さんに相談をし、後押しをしていただきました。職員体制も子育て支援課と連携を取りながらやってきたのが現実であります。

(町長) 一学期が終了しましたが成績は付けましたか。

(教育長) 短期間の一学期でしたが成績は付けました。ただ、保護者からの問い合わせ等があった場合、明確に説明ができるよう慎重に評価を付けるよう指導しました。

(山本委員) コロナ禍の対応は、学校がこれほど長期にわたり休校するとは想定外で当初は誰もが思いもしなかったことだと思います。その中で学校は試行錯誤をし、教育を維持しようと努力したことは良かったと思う。ただ、社会的にリモート授業が非常に話題となったが、リモートでは臨場感・現場感等に欠け、その中で生まれる情緒感、次に担う意欲、このようなものがリモートで生まれるのか心配で、こういう方法もあるという備えは必要だが絶対視をしてはいけないと思う。教育の価値は、先生や友達の顔を見て言葉を交わし、その中で新たな解決方法を模索していくことが本来の教育であり、そこで付ける力が将来的に生きる力であると思います。

(町長) 最近感じるのは、漢字の読み仮名がでてこない時があり、直ぐに調べればわかるわけですが、目だけで追ってしまうので直ぐに忘れてしまいます。リモートの授業はその傾向が絶対に出るのではないかと心配です。やはり書くことにより、或いは計算することにより覚えるのであって、本当の学力が付くのか疑問を生じます。

(教育長) 将来においての試金石になるのではないかと思います。

(山本委員) いろいろな視点で共存を図ることが大事で、このような精神的な危機をどう扱っていくかということも大事ですし、一方、人と人が会話をしていくことは将来的にも対人関係を育むうえで重要なことです。このようなことを含めて、成長していくうえでいろんな大事な要素があると思うので、バランスよく考えていかなければならないと感じます。

(町長) GIGAスクール構想で一人一台端末になりますが、ハードは共通仕様だが、ソフト面はそれぞれ違うが国の指針は。

(事務局) ソフト面については、デジタル教科書を含めて地方自治体の費用で自分たちに適したものを揃えていくことになっています。

(教育長) 国では一人一台端末を華々しく掲げているが、その後のランニングコスト等は全て町負担です。また、家庭によって通信環境は違います。行政としては安易に家庭の通信環境までは対策を取れません。現状では対応できない家庭の場合は、学校へ来てパソコン室等で対応できるようにしています。

いずれにしても、第2波、第3波も心配されています。私たちもアンテナを高くして、何が起きても困らないよう準備をして参ります。

[最後に町の施設（文化施設、社会教育施設、スポーツ施設）の現状と今後について事務局で説明しました。]

(2) コミュニティスクールの導入とこれからの南部町教育

[教育長がコミュニティスクールについて、これまでの南部中学校の取り組み状況及び今年度から各小学校へ導入する経過等を説明しました。また、南部中学校学校運営協議会の会長を務める山本委員に協議会の役割やこれまでの取り組み等の感想を伺った。]

(入月委員) 南部中学校学校運営協議会の設立した当時の話がありましたが、当時は県内でも少数の中の指定を受け取組みました。南部町は今年度から全ての小学校でも取り入れましたが、これは県下でも誇れることだと思います。

(山本委員) 南部中学校は、県内の事例発表会等と呼ばれ、学校の教材、事例集にも紹介されており、成功している学校です。また、各学校で発行している学校だよりに学校運営協議会が生まれた等の記事が掲載されておりますし、その他にも子供たちの様子が写真等でも紹介されております。町民の方にとっても教育を知っていただく良い方法だと思います。

(佐野委員) 委員になった人たちは年に何回か学校へ行って、学校の様子、生徒の様子を見て意見をいうのですか。

(山本委員) 学校開放時は委員にも案内があります。他にも合唱発表会時に案内があり、その後委員会を開催したりしています。基本的に中学校の姿勢は何時見に来られてもオープンにしています。

あと、一つの例ですが内船歌舞伎の方が相談に来た時に感じたことは、学校としても郷土の芸能活動を学ぶ機会になると考え、学園祭で取組んでみたらどうかと思い次の年から始めてみました。地域の方が学校へ来ないと繋がりができませんし、行き来があるということが大事なので、入口のハードルを下げ、門戸を開いていくことがとても大事であります。

(秘書政策監) 会議の議事、内容は事前に示さずに意見交換をするのですか、それとも学校側が議事を提議して協議を進めていくのですか。

(山本委員) 学校提示です。例えば、一学期初めに校長先生が学校の経営方針、教育目標等を提案して承認することも一つの役目です。二学期に入れば一学期の学校評価を行いますし、3月には2回目の学校評価のほかに来年度の案を協議します。そのため、学校にお願いしたことは資料配布を当日ではなく事前配布するようお願いしました。

(教育長) 資料にも添付してありますが学校評価などは細かく出ます。資料を見ればどの学校でも地域に開かれた学校づくりをしていることがわかります。

(3) 町単教員・支援員の配置による成果と課題

[教育長が各学校の町単教員及び支援員の配置による効果について説明をしました。]

(入月委員) 教育委員になって、初めて学校訪問にいったのが5年前になります。その時、万沢小学校へ訪問したが町単教員により複式学級が解消されていきました。静岡市と比べると考えられない思いがしました。また、学校司書も峡南地域を含め全ての学校に配置されており、静岡市では全く考えられないことでした。さらに施設面に於いてもエアコンが普通教室に全て設置されており、これも驚きでした。静岡で教員をしていた私から見ればすごく恵まれた環境であると感じました。その他にも今年から小学校へも導入されたコミュニティースクール、県下でも数少で先駆けております。また、南部町には生涯学習施設も数多くあります。人的な面及び環境面に於いても、恵まれていると感じています。町長さんが目指す「一流の田舎町」、「一流の教育」にも南部町は近付きつつあると思います。今は変化の多い時代ですが一つのチャンスと捉え、教育の変化に対応しながら向かって行く町になれが良いと思います。

(教育長) 教育委員会としては、学校の応援団でありたいと思っています。いろいろなものが他町より進んでいると思いますが、甘えることなく教育のプロとしての自覚を持ってやってもらいたいと、常々話をしております。

(4) 小学校の統合、そしてその後について

[教育長が富沢小学校児童によるアンケート結果や教員による統合評価・影響等について説明をしました。また、今後の南部地区の統合準備について説明をしました。]

(町 長) 今、町が進めていることは、総合会館の老朽化による代替え施設として、旧富沢中学校の改築を進めており、設計、そして工事が完成するのは、来年の夏前にはできます。そして完成したことにより、富沢図書館及び総合会館の一部機能を移します。その後、分庁舎の2階、改善センターの一部を改修することにより、総合会館で行っていた各種委員会活動ができる部屋を分庁舎で行えるようにしたいと思います。

(総務課長) 分庁舎、改善センターの改修につきましては、12月の議会へ設計の予算を計上し、4月早々に工事契約、5月の連休を利用し、教育委員会、産業振興課の引っ越し作業を行う計画です。その後、夏の台風シーズンを避けて総合会館の解体工事に着手、年度内に完了する予定です。

(秘書政策監) 全体計画の中では、町長の予定どおり終わります。令和3年度末には、総合会館の解体を終了させ、令和4年度に継続事業として残るのは、今の富沢図書館の解体、林業センターの解体、そして、総合会館跡地の駐車場整備です。

(町 長) このような一連の事業がありますから小学校の統廃合については、早くても令和7年度頃になりますか。今後、町には企業も来ます。現在の町民だけでは雇用、運営は成り立ちません。当然、当社の方からも人材は来ます。その中にはお子さんがいる方なども考えられます。

前回の統合の資料を見れば、かなりの時間が必要で、6年の歳月をかけております。

(教育長) 前回は町内全ての地域に説明に伺い、尚且つ、再度、再々度の説明に伺った経緯があります。

(山本委員) 令和7年度の開校を目指すというお話でした。前回の地域説明会時は、栄地区の説明会に出席しましたが反対論はありませんでした。また、その中には、早く統合した方が良いであろうという意見もありました。実際に自分が万沢小学校で経験したのは、児童2人だけの学級では成長していく段階で難しい人間関係がありました。しかし、その子たちが中学校へ入学した姿を見ていると、他の子どもたちと一緒に話したり、学んだりしている姿を見ると、少なくとも3人以上、5人以上、10人以上の中で、自分が見えてくるのではないかと感じます。資料のデータを見ると栄小学校の令和6年度で1年生、2年生の男女間のバランスが取れていないという状況が生まれてきています。数字を見てもこの辺りではないかと感じます。

(教育長) 私たちは様々なデータを基に子供にとってより良い教育環境を整えてあげることが大事です。

(山本委員) 富沢小学校児童の統合後の感想を見ると、良かったという感想が多いので良かったと思う。以前、富河中学の教頭をしている時に、中学校の統合問題がありました。その時は富河地区では非常に多くの反対論がありました。教育委員会の方も非常に苦労したと思いますが、新校舎を見に行ったり、バスを用意したり、いろんな方策を取りながら統合しました。統合した結果は、非常に良かったという評価だと思いますので、同じような評価になるのではないかと思います。

(教育長) 教育委員会や町としては、地域や保護者の皆さんの声を聴きながら、一つ一つ誠実に対応していくことに尽きると思います。

(5) その他

(秘書政策監) 本日の会議の全体的な感想になりますが、一つ目は資料に富沢小学校職員の統合評価がありますが、読んでいくと前向きな評価が多々あります。しかし、統合したことによる子供たちの課題点等が見られません。おそらくはあるのだろうが学校の中で話し合いながら前向きに克服してきたのかもしれませんが、この教育会議の場には出てきてもよいのではないかと思いました。二つ目は、コロナ禍の対策の中で家庭訪問等、先生方は大変なご苦労をなさったと思います。その際に先生方が感じ取った想い、課題点などがあれば今後の第2波を想定する中で活かされるのではないかと感じました。あと一点、コミュニティースクールのお話をいろいろとする中で、中学校は1校なので単独として、町内小学校は3校あります。各学校長が経営方針を打ち出し、その方針に向かい各学校が対応するのだと思いますが、経営方針の中には南部町立小学校としての共有を図る必要性を感じました。

(教育長) 統合後の評価は、まだ一学期の2ヶ月だけなので子供たちにすれば友達が大勢できて良かった喜びが大きく、一年間やれば地域や学校文化の違いはいろいろと出てくると思いますので、今後の会議で明らかにできるものはしていきたいと思います。家庭訪問等、コロナ禍の対応等については、それぞれの学校で夏休みの研修中に明らかにされて、次に活かされると思います。概ね問題はありますが課題が全くないわけではありません。最後に経営方針の問題ですが、各学校とも根底にある部分は一緒なのですが、各校の特色を活かしながら方針を打ち出しております。いずれにしましても教育を活性化するにはどうしたら好いかということをいろいろ模索していきたいと思います。

時間になりましたのでこれで議事を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。

5 閉 会 (佐野委員)

ご苦労様でした。昨日、南部中学校の学校だよりを読みました。新型コロナウイルスの感染拡大という大変な時期に、生徒の言葉として「今まで当たり前だった日常生活がどれほどありがたいことだったのか良く分かった。」とか「今、できることをよく考えて精一杯やろう」という意見が載っていました。きっと児童生徒は家族や地域の大人たちの姿を見て、大事なことを学んでいくのだと思いました。また、昨晚、私はラージボール卓球で小学生の子供たちと話す機会がありました。今年の夏休みはどうですかと聞くと、「皆が我慢しているので僕たちも今年は何処へも行かないで我慢します。」ということは何人かが言っていました。子供たちもこの時期を自助、共助で乗り越えていく姿勢があると非常に感心いたしました。まだまだ第2波、第3波が心配されますが前を向きながら、一步一步、前進していければと思います。